

「子どもを まもる どうぶつたち」

1 単元の目標と評価規準

目標：文章を読んで分かったことを伝え合することができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。	① 「読むこと」において、文章の中の重要な語と文を考えて選び出している。 ② 「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。	① 動物たちの子供の守り方を知るために、すすんで文を読み、分かったことを伝え合おうとしている。

2 教材について

終わり	中								始め
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
	事例②コチドリ				事例①オオアリクイ				
まとめ	理由	【答え②】 守り方	比較 ライオンとの	説明 コチドリの	理由	【答え①】 守り方	比較 ライオンとの	説明 オオアリクイ	【問い】
動物たちは、さまざまな知恵を使って、子どもを敵から守り、そして、子孫を残し、命をつないでいる。	コチドリの親が、けがをしていると敵に見せかけて、敵の注意をひなからそらす。	そこで、コチドリの親は、早足で、巣から遠ざかり、鳴き声を上げ、羽をバサバサとはばたかせ、羽をひきずりながらよろよろと歩き、巣から離れる。	鳥は、ひなをくわえて運べない。	コチドリは、小さな渡り鳥で、ひらけた場所で、子育てをする。	親の身体の模様と、子どもの身体の模様が つながって見え、敵から子どもが目立たなくなる。	子どもを背中に乗せて運ぶ。	ライオンは、子どもを危険から遠ざけるときには、くわえて運ぶが、オオアリクイの口は細長いので、子どもをくわえて運べない。	オオアリクイは、長い舌をしまっておくために、口が細長くなっている。	動物たちは、どのような知恵を使い、敵から子どもを守るのか。

本教材は、2つの動物を事例にあげ、その子どもの守り方について書かれた説明文である。文章を読んで守り方の違いを比較できる内容である。

3 単元計画(全7時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	これから学習する文章に対して興味をもつことができる。	○ライオンが、何をくわえているのかクイズを行う。 ○範読を聞き、どんな動物が出てきたか確かめる。 ○言葉・振り仮名を確認する。
	2	内容の大体をつかむことができる。	○通読する。 ○形式段落を書き込む。 ○「問い」を見つける。 ○はじめ・中・終わりに分ける。
第二次	3	オオアrikイの子供の守り方を読み取ることができる。	○動物の特徴や子の守り方、理由を読み取る ○言葉の置き換えクイズや動作化を行い、言葉や文章の意味を読み取る。
	4【本時】	コチドリの子供の守り方を読み取ることができる。	
	5	オオアrikイとコチドリの相違点を見付け、伝えることができる。	○相違点・共通点を見付ける。 ○それぞれの動物の相違点・共通点を基に、気が付いたことや考えたことを話し合う。
	6	オオアrikイとコチドリの共通点を見付け、伝えることができる。	
第三次	7	他の動物の知恵を知り感想をもつことができる。	○生き物の知恵に関する本の読み聞かせを聞き、知ったことを発表する。

4 全力参加のための手立て

動作化

それぞれの子供の守り方を、本文の言葉に着目して動作化する。

→内容理解

言葉の置き換えクイズ

言葉が変わっている本文を見て、間違っている部分を探すクイズを行う。

→言葉への着目

5 本時の展開(全7時間中の第4時)

本時の目標: コチドリの子どもの守り方を読み取り、伝えることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ・▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 2分	1 本時の流れを確認する。 2 めあてを確認する。	どのようにして コチドリの子どもを まもるのかをしり、 はっぴょうしよう。	
展開1 20分	3 音読をして、コチドリの守り方を読み取る。 ①児童全員②学年別 4 言葉の置き換えクイズ 5 コチドリの子供の守り方を、真似する。	▲読みがスムーズでない児童には 指で追いながら読むように促す。 ・工夫されている点を置き換えたクイズを出題する。【焦点化】 ・正しい言葉が書かれている場所を、おさえさせる。 ・「早足」「鳴き声をあげる」「巣から離れる」など、置き換えクイズで確認した言葉を意識して動作化させる。【動作化】 ・巣とヒナと敵の模型の具体物を用意し、位置関係を意識しやすいようにする。【視覚化】	 考えたい
展開2 20分	6 ヒナから離れていいのか考える。 T:ヒナから離れていいのかな? C:離れちゃだめ C:離れてもいい C:離れないと守れない C:注意をそらさないといけなから 7 子供を守る知恵をワークシートにまとめ、発表する。	・ペアでなぜ離れるのか考えて発表する。 ・選択肢(① 離れていい② 離れてはいけない③ どちらともいえない)を提示し、立場を明確にし、理由を発表する。 ▲書字の実態に応じてワークシートを変更する。	 伝えたい 文章中から根拠となる言葉を見付け出し、離れてはいけない理由を他者に伝えている(発言・動作)
まとめ 3分	8 めあてに立ち返り、コチドリの守り方を発表する。		

6 板書計画

子どもを まもる どうぶつたち
めあて どのようにして コチドリの子どもを まもるのかを しり、はっぴょうしよう。
とりは、ひなを くわえて はこぶことができます。
コチドリのおやは、てきを 見つけると、ゆっくりと すからとおざかります。
そして、しずかに、羽を バサバサと 羽ばたかせます。
さらに、羽をひきずりながら よろよろと歩いて、すの近くへ 行きます。
ヒナからはなれていいのかな？
① はなれて いい
② はなれては いけない
③ どちらとも いえない

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。